

## &lt;保護者アンケートの結果から&gt;

概ね、肯定的な回答が多く、前年度までの課題になっていた項目も、弱冠にとどまっているものもあるものの、大まかには改善ができています。特に、今年度から追加した個別の指導計画に関する項目では、100%の肯定的な評価だった。

その中で、傾向として、学年が下がるほど（高→中→小）、肯定的な評価は少し下がると言うことができる。これは、低学年ほど、児童生徒に対してのきめ細かな対応を求めていると考えられ、教員にそのような意識を持つことが必要であると考えてよい。（特に、相談体制で明確）

また、評価が弱冠低いものの中では、「交流学习」に関するもの、高等部での「進路情報」に関するもの、高学年になるほど低くなる「引継ぎ」に関するものがあげられる。

交流に関しては、学校間交流を中心にかなりきめ細かく実施しており、その情報発信が不完全であると思われる。また、学校間交流だけでなく、高等部の販売学習を地域へ出向いて行うことに関して、現在実施しているやり方をさらに工夫することが必要であるということも考えてよい。

高等部の進路情報や引継ぎに関しては、実施内容を再点検するとともに、どんなことを実施しているかの情報提供も工夫するべきであると考えられる。これらは、個別対応が必要なことが多く、その観点からの工夫も必要になると考えられる。

## &lt;職員自己評価から&gt;

自己評価は、全体的に「できた～よくできた」の中にあり、昨年度との比較でも、微良かほぼ同等で、特に問題点は見当たらなかった。

今後は、細かい点まで配慮して、よりよいものを目指し、各部署にある具体的な「改善の方策」を実践していくことが大事であると考える。